

緊急事態後に心のケアが特に必要な人たち

特定の集団の人たちは、緊急事態の状況次第で、心理社会的問題のリスクが高まることに注意

それぞれの集団に合わせた優れたプログラムを計画することが重要

- レジリエンス（回復力）がある
- 被災者全体に働きかける心のケア

レジリエンス
（回復力）

困難な状況において
比較的うまく
対処できる力



近くにいた人

事故現場などの
近くにいた人たち

作業員

事故が起きた原子力施設の
作業員とその家族

対応者

危険やストレスの多い状況下で
作業している対応者※
の人たち

避難者・
受け入れ地域

避難者および
避難者を受け入れた
地域の人たち

子ども

被災地の子どもたち

親・親になる人

子どもの健康を心配する親、
これから親になる
人々

レジリエンスはあるが心のケアが特に必要

緊急事態の状況次第で心理社会的問題のリスクが高まる特定の集団

病気・高齢者
障がい者

病気をもつ人、高齢者、障がい者
など身体的ニーズのある
人々

施設

高齢者施設など、
居住・収容施設にいる
人々

メンタルヘルス

以前からメンタルヘルスや
心理社会的なニーズを
もつ人々

読み書きが
困難

読み書きが困難な
人々

※ 対応者：
保険医療従事者、事故現場の清掃作業員、
報道記者、およびその他の対応者をさします

世界保健機関（WHO）が公表した「原子力・放射線緊急事態における心のケア」（2020年）では、原子力災害が起ころうと、被災者の多くは、困難な状況において比較的うまく対処できる力（レジリエンス（回復力））があり、すべての人が重大な心理的問題をかかえたり、抑うつや不安、PTSDなどを発症したりするわけではないと述べています。ただし、特定の集団の人たちは、緊急事態の状況次第で、心理社会的問題のリスクが高まることにも注意を呼びかけています。リスクのある人々にもレジリエンス（回復力）があることを認識した上で、被災者全体に働きかける心のケアと同時に、その集団に合わせた優れたプログラムを計画することが重要であると述べています。

出典：WHO 「A Framework for Mental Health and Psychosocial Support in Radiological and Nuclear Emergencies」（2020）より作成【日本語版は福島県立医科大学医学部災害ごころの医学講座ウェブサイト(<https://www.d-kokoro.com>)に掲載】